



昨日から11月が始まり、2学期も折り返しとなりました。日が暮れるのも早くなり、寒暖の差の大きさに体調を崩しがちな時期です。お子様の体調管理には十分注意していただくようお願いいたします。11月1日には学習発表会があります。子どもたちはそれぞれ本番に向けて、練習や準備に張り切って取り組んでいます。



## サツマイモの収穫

2年生と地域の方が6月に植えたサツマイモの収穫を、10月30日(月)に行いました。前日までの雨で少しぬかるんでいましたが、全員サツマイモを収穫することができました。子どもたちは、たくさん実ったサツマイモを手に取り、とても大喜びしていました。一人3個ずつ持ち帰り、残りは12月に学校でふかして食べる予定です。今回、収穫にあたっては、畑の手入れ、収穫の準備、当日の交通整理などで多くの地域の方に協力していただきました。本当にありがとうございました。



## 交流遊び

本校では、月に一度交流遊びをしています。この交流遊びは、交流委員会の子どもたちが内容を考え、いっちータイムに実施しています。10月は「手つなぎリレー」を行いました。1チーム20人ぐらいが手をつなぎ、手を広げてできたスペースを手を離さずに通り抜けるリレーです。この日は、約150人ぐらいが参加し、子どもたちは、手を離さず、できるだけ早くくぐろうと一生懸命がんばっていました。この交流遊びでは、1～6年生が一緒になって遊ぶことができる貴重な機会になっています。



## 市長と給食を食べ懇談する会

年に1回市長が市内の小学校を訪問し、児童と給食を食べ、懇談する機会があり、10月31日(火)に市長・教育長・秘書課の職員の3名が見えました。最初に6年生の学級に入って給食を食べ、食後には市長と教育長にそれぞれ質問をしました。その後、前後期の児童会役員が校長室で懇談をしました。子どもたちからいろいろと質問が出され、それぞれの質問に対して、市長から分かりやすく答えていただくとともに、とても熱い思いを子どもたちに伝えていただきました。子どもたちにとって、自分や長久手市のことを考えるよい機会となりました。



## ベルマーク50万点

10月にベルマーク教育助成財団から本校に、ベルマークで50万点を達成したことに對して、右のようなその証明が送られてきました。ベルマークボランティアの皆様、並びにベルマークを集めていただいた方の支えがあってこのような記録になったと思います。29年度については、竹馬、ティーボールセット、デジタルカメラなどを購入する予定です。



## 長久手市福祉大会

10月21日（土）に、第32回長久手市社会福祉大会が行われ、学校を代表して大野巧翔さんが福祉体験作文を発表しました。内容は下の通りです。この内容については各昇降口に掲示してあります。この体験作文を、福祉について考えるよい機会としてほしいと思います。



### 「福祉についてぼくたちが考えること」

市が洞小学校 大野 巧翔

これは、ぼくが5年生のときの事です。ぼくが友達と遊びに行った帰りのバスで、おじいさんとおばあさんが乗ってきました。しかし、席は満席で、優先席も他の高齢者でいっぱいでした。おじいさんとおばあさんは困ったような顔をしていました。そこで、ぼくは、ふと学校であった福祉実践教室のことを思い出しました。そして、おばあさんに席を譲りました。すると、今度は友だちがそれを見て、席を譲ってあげていたので、おじいさんとおばあさんは喜んで、あめをくれました。

福祉実践教室では、ぼくは、高齢者疑似体験に参加しました。この高齢者疑似体験は、自分が高齢者になりきって、身をもって高齢者の大変さを知ろうという体験でした。ぼくは、最初、高齢者疑似体験はどんな体験をするのか見当もつきませんでした。行ってみると、それは高齢者の方の生活を実際に体感することができる道具を身につけて、体を動かしてみるところでした。体力の衰えを感じるおもりや、視界をふさがれるゴーグルを身につけて、歩きにくくなるくつをはき、関節を固定しました。そして、階段を上り下りしました。視界がふさがれていて、前がよく見えず、ひじやひざの関節が固定されていたため、よくつまずいて転びそうになりました。下りも目がよく見えないので、足を置く位置が分からず、階段を転げ落ちそうになり、大変な思いをしました。すべての高齢者とは限りませんが、たくさん的高齢者が、毎日つらい思いをしていたんだなと思いました。この体験から、バスで会った高齢者に席をゆずってあげることができました。

また、ぼくは、自分の祖父に申し訳ない気持ちで一杯になりました。祖父は高齢ですが、毎日ぼくの散らかしたものを片付けてくれたり、ご飯を作るなど家事をしてくれたりしています。「祖父は普段は元気だけど、もしかしたら苦労していたかも。」と思うと、くやしい気持ちで一杯になりました。「なんで今までもっと親切にしてあげなかったんだろう。」と思いました。ぼくは、ここで高齢者に親切にする思いやりの心をもって行動することが、「福祉」の一つではないかと考えました。その日から、自分で片付けるものは片付け、家事も手伝うようにしてきました。さらに、テレビも祖父が見たい番組を優先して見てもらうようにしました。また、祖父がさびしい思いをしないように、学校や習い事などの出来事を話してあげるようにしました。こういう思いやりや親切の一つ一つが「福祉」につながると思い、ぼくは、自分でできる身近な活動から始めました。

福祉実践教室は、ぼくにとって「福祉」について考えるきっかけとなりました。そして、学んだことを生かし、高齢者の方々に対してよい接し方ができるようになったと思います。ぼくは、人に対する思いやりや親切が、「福祉」にとって大切なことだと思いました。

ぼくが、今の社会を見て思うことは、こうした思いやりや親切がもっともっと全世界にまで広がっていくことが必要なのではないかとということです。社会の中では、高齢者は、まだ生活しづらくつらい思いをしている人たちが多くいます。ぼくが、福祉実践教室をきっかけとして学び、祖父やバスの中で出会った高齢者に優しく接することができるようになったように、一人でも多くの人に思いやりや親切に気づいてもらい、高齢者にとっても生活しやすい社会になってほしいと願っています。多くの人々が、「福祉」について理解してくれることにより、今後の社会はよりよいものになると思います。「福祉」が広がっていくことを、ぼくは願っています。